

O-2-1

ウクライナ人道危機 国際赤十字・赤新月社連盟 倉庫管理要員の活動

大阪赤十字病院 国際医療救援部

○河合 謙佑、中出 雅治

ウクライナ各地での戦闘激化により、2022年2月24日以降560万人以上の人びとが国外へ避難し、約770万人の人びとがウクライナ国内で避難民となっている（UNHCR：2022年5月3日時点）。赤十字は、国際赤十字赤新月社連盟（ウクライナ赤十字社をはじめとする各国赤十字・赤新月社、赤十字国際委員会（ICRC）、国際赤十字・赤新月社連盟（IFRC）を含む）で、この人道危機に対応している。IFRC は早期から緊急救援要員を各国に派遣し、この要員に登録している演者も3月25日からウクライナ西部に隣接するモルドバ共和国（以下、モルドバ）にIFRC倉庫管理要員として派遣された。モルドバではモルドバ赤十字社と共に活動を行い、この人道危機で新たにモルドバ赤十字社が借りた倉庫（約1,000平方メートル）で、倉庫のレイアウトプラン作成、倉庫内の立上げ、ヨーロッパ各地から輸送されてくる救援物資や資機材の搬入、倉庫での適切な保管管理、的確な輸送手配・搬出などの業務を担っている。また、モルドバ赤十字社に対して倉庫管理のルール作りや、倉庫管理能力の向上を目的にトレーニングも実施している。さらに、モルドバのIFRCチームのロジスティクス要員と共に、ロジスティクス業務全般（輸入輸送管理、調達、車両管理など）を行っている。活動の詳細については学会で発表する。

O-2-3

バングラデシュ南部避難民保健医療支援～医療施設への心理社会的支援の導入～

日本赤十字社愛知医療センター名古屋第二病院 国際医療救援部

○中島 久元、杉本 憲治、岡塚 美穂

【背景】

2017年8月に起きたミャンマー・ラカイン州での暴力行為により、隣国バングラデシュへ避難してきた人びとに対し、日本赤十字社（以下、日赤）は、心理社会的支援（以下、PSS: Psychosocial Support）を含めた保健医療支援を2017年9月から現在まで続けている。PSSの内容は、子ども達へのアクティビティや成人男性、女性に対するグループセッション、または各自宅を訪問し必要な支援に繋げる活動などを行っている。2018年からデンマーク赤十字社（以下、デ赤）との協働で活動を継続し、避難民のストレス軽減、健康的な生活の促進を図っている。

【活動内容】

2022年よりデ赤は「こころの健康なくして、健康はない」をコンセプトに、避難民キャンプ内にある全ての赤十字、赤新月社医療施設におけるPSSの導入を計画、その先駆けとして、日赤の支援する医療施設でPSS導入を進めるため、報告者もこの活動に加わった。まずは対象患者に対するPFA（サイコソジカルファーストエイド）の提供を開始するため、医師、看護師達とどのような症状を持つ患者をPSSスタッフへ紹介するかなどを話し合い、PFAを提供出来る安全な場所の準備、またPSSスタッフへの研修などを実施した上で、患者へのPFA提供を開始した。さらに、生活習慣病患者の身体とこころの健康維持、向上を目的として、糖尿病などの非感染性疾患患者に対する運動セッションの提供を計画した。PSSスタッフ、地域保健スタッフへの研修において、運動の必要性についての学習や実施する運動の練習を行い、対象患者への運動セッションの提供を開始した。

【今後の展望】

日赤の支援する医療施設で行ったPSS導入の活動をモデルとして、今後他の赤十字・赤新月社の医療施設へもPSS導入を広げていく予定である。

O-2-5

RFIDを利用した災害用資機材管理システムの構築

大阪赤十字病院 国際医療救援部

○片山 珠、中出 雅治

令和3年度に完成した日本赤十字社の病院緊急対応ユニット（以下、病院 ERU）の資機材について、使用期限がある消耗品については定期的な期限管理が必要となる。これを担う大阪赤十字病院では、資機材管理の効率化を図るため、電波を用いてICタグのデータを非接触で読み取ることができるRFID（radio frequency identifier）を利用した管理システムを導入した。これまでもRFIDを病院の在庫管理に導入している例はあるが、災害医療関連での資機材管理に用いるのは初めてである。病院ERUは国内保管時と現地展開時とで管理の運用が大きく異なる。国内では通常、輸送用木箱に梱包した状態で保管しており、木箱の外からでも中にある商品の在庫状況や期限確認ができること、また隣接する木箱内にある商品のICタグと干渉しないよう、指定の木箱のみ読み取る機能が必要となる。一方現地展開時には、商品が各テナントに移動し消費されるため、期限管理に加えてテント毎の引出履歴や病院ERU全体の在庫状況を簡便かつ正確に把握できなければならない。加えて、これまで例のなかった輸送用木箱や災害用テントといった特殊な環境下でも正確に読み取れるICタグやスキャナの改良も課題であった。これらに対応するため、国内用、海外用の2種類のシステムを構築し、検証と改良を繰り返した。最新の検証結果を含めた詳細を学会にて発表する。

O-2-2

バングラデシュ南部の地元住民とラカイン州からの避難民へのKAP調査

日本赤十字社愛知医療センター名古屋第二病院 国際医療救援部¹⁾、日本赤十字社医療センター国際医療救援部²⁾

○菅原 直子¹⁾、苔米地則子²⁾

【はじめに】ミャンマーのラカイン州からの大量避難民がバングラデシュ南部に流入以来バングラデシュ赤新月社（バ赤）による地域保健活動は国際赤十字・赤新月社連盟と各国赤十字・赤新月社の支援を得て継続している。5年目となる2022年以降は地元住民へも支援拡大を計画することとなった。そこで、地元住民にとっては初期調査、避難民へは中間として健康に関する調査をした。【方法】2022年3月にデータ収集ツールKoBoToolBoxを用いた質問紙調査を実施した。データ解析はSPSSを使用し、地元住民と避難民の健康に関するKAP（知識Knowledge、態度Attitude、実践行動Practice）レベルを調査した。質問内容は健康状態の認識と健康促進活動、社会医学の3分野とした。【倫理的配慮】バングラデシュ 医学研究審議会の承認を得た。【結果・考察】地元コミュニティ4つと、避難民キャンプ15を対象に432のサンプルを採取した。健康状態の認識で、1か月以内の健康問題の有無は地元住民が61.9%で避難民が56.3%で地元住民は呼吸器感染症や下痢の症状、避難民は皮膚疾患に有意差があった。精神状態には有意差はなかった。健康促進活動については出血と熱傷の応急処置や新型コロナウイルス感染症の予防、下痢中の小児の授乳の知識について避難民に有意差があった。保健情報は避難民が医療従事者やボランティアから有意に情報を得ていた。避難民の知識に有意差があったことと、社会医学についてソーシャルサポートと尊厳など一部の項目で避難民に有意差がみられたのは、バ赤やその他のボランティアの訪問について避難民が地元住民より有意差がみられたことに影響があると示唆された。

O-2-4

ウクライナ人道危機における現地診療所セットアップと薬剤師の役割

大阪赤十字病院 国際医療救援部¹⁾、大阪赤十字病院 薬剤部²⁾

○仲里泰太郎¹⁾、河合 謙佑¹⁾、池田 載子¹⁾、光森 健二¹⁾、小林 政彦²⁾、中出 雅治¹⁾

2022年2月24日から始まったウクライナ人道危機に対し、国際赤十字赤新月社連盟（以下IFRC）はウクライナ西部、スロバキア国境に接する町ウジュホロドにWHO EMT Type1に相当する診療所を開設した。発表者は2022年4月28日からフィンランド赤十字社がリードするIFRCの緊急救援チーム第1班の薬剤師/メディカルロジスティクスの担当者としてこの診療所のセットアップから運営を軌道に乗せるまでの業務を担当した。通常の緊急救援と異なり、ウクライナ国内では外国人医療者の医療活動が原則禁止されており、ウクライナ赤十字社が雇用したウクライナ人医療者を支援するという形で業務を行った。また資機材、医薬品や医療消耗品は当初フィンランドから輸送されてきたが、地域経済を活性化させるため医薬品は原則ウクライナ国内で調達する旨ウクライナ赤十字社から通達があったため、通常の緊急救援では行わない医薬品の現地調達から廃棄までのラインを現地で完結させるため、様々な調査も行った。詳細は本発表にて報告する。

O-2-6

国際救援Emergency Hospitalの国内におけるロジスティクス業務

大阪赤十字病院 国際医療救援部

○河合 謙佑、池田 載子、仲里泰太郎、中出 雅治

【背景】日赤は国際救援緊急対応ユニットの病院型（Emergency Hospital、EMTタイプ2に相当）の構築を決定し、2019年度から資機材の調達を開始した。従来のクリニック型（Emergency Clinic）の資機材は熊本赤十字病院とシンガポールに1基ずつ保管しており、病院型構築に要する資機材は、電気モジュールを日本赤十字社愛知医療センター名古屋第二病院、それ以外を大阪赤十字病院および大阪府内に保管している。これら資機材は緊急救援資機材として、常時輸出可能な状態になっている。【ロジスティクス業務】構築段階からスタンバイ状態におけるロジスティクス業務は、主に「梱包」、「保管管理」、「品質管理」、「輸送計画」である。梱包に関しては、クリニック型では主に車輪が付いたケージを梱包材とし、派遣地域での機動性を重視した梱包形態としている。一方、病院型は資機材の体積、重量ともにクリニック型よりも大幅に増加し、この条件下で輸送と保管の効率性を向上させるために、主に木箱梱包を採用している。また、病院型には航空輸送において危険品に該当する資機材や、使用期限を有する医療消耗品、定期メンテナンスを要する医療機器等が含まれ、資機材の特徴を考慮した梱包を行っている。保管管理および品質管理も同様に、資機材に適した管理方法を採用し、メンテナンスを行える専門要員や業者が在籍する地域を保管場所としている。

10月7日(金)
一般演題(口演)
抄録